

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000049		
法人名	メディカル・ケア・サービス関西株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム京都洛西 (ひまわり)		
所在地	京都市西京区大枝東長町1-68		
自己評価作成日	平成28年10月30日	評価結果市町村受理日	平成29年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2694000049-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族様とのつながりを大切にす為 1か月に1度家族様をお招きし 入居者様、スタッフと昼食会を行っております。また ホーム内に小さい畑を作り 季節の野菜を育てています。花梨酒・梅干・たくあん・干し柿等も作っています。ケアでは 入居者様が自宅に戻られた時と同じような生活リズム、環境で過ごして頂き出来ることを妨げず支援しています。ホーム独自の理念「介護=快護」を掲げています。入居者様・職員がお互いに笑顔で過ごせる、みんなが快い気持ちになれるようにと思いを込めています。また、地域の一員として様々な行事に参加したり、ホームのイベントにお誘いしたり協力関係を築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は地域との交流を深めることを理念に謳い、地域の運動会の見学や敬老会への参加、ハーモニカやピアノ演奏、歌等のボランティアの来訪のほか、事業所で行うバーベキュー時には地域の方に参加してもらうなど様々な取り組みを通して地域との関わりを深めています。またプランターの花植えや畑の作物などに対してのアドバイスをもらったり、野菜などの収穫物が届くなど地域の中の一員としての関わりも広がっています。また、月に1度家族との食事会を開催し多くの参加を得ており、外出時や事業所のイベント時には手伝いをしてもらうなど家族との協力関係を築いています。看取り支援においても話し合いを重ねながら職員とかかりつけ医、家族との良好な関係を築き、意向にそった支援となるよう取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、出勤時に運営理念・ビジョンを唱和し、共有しています。	法人理念を基に職員間で話し合い、事業所の理念やフロア毎のビジョンを作成し、事務所に掲示しています。申し送り時に唱和すると共に当日の目標を発表し終了後にはその反省点も含め次の勤務者へ引き継いでいます。カンファレンスでは理念の振り返りや実践状況の確認を行っており、理念を意識しながら日々のケアにあたっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、地域の学校の校外学習の受け入れをし地域との関わりを持っています。	運営推進会議や回覧板で地域の情報を得て運動会の見学や敬老会、地域の子も達が集う催し物に参加し交流を図っています。また近隣の老人施設とは互いのイベントに招待し交流を深めています。中学校の体験学習の受け入れやハーモニカやピアノ演奏、歌以外にも野菜作りのアドバイスや花植えなどのボランティアの来訪もあり、地域との関わりが広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	来訪、問い合わせの電話、学生の受け入れ等、随時相談にのっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域役員様、地域包括、福祉施設等の様々な方に出席頂きホームでの取り組み等話し合いサービスの向上につなげています。	会議は民生委員や地域連合自治会会長、家族、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1度開催しています。事故や行事等の現況報告や意見交換等を行っています。地域の情報をもらい行事に参加したり、ボランティアに来てもらうなど、得られた意見は検討し反映するよう努めています。家族には議事録を送付し報告をしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議後は必ず、洛西支所に議事録を提出に行き、疑問点等は相談しています。	運営推進会議の議事録を直接行政の窓口に届け運営状況を報告をし、疑問点について聞いたり相談等を行いアドバイスをもらっています。行政から研修案内が届いた場合は限り参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や指導を行い 職員に周知しています。	法人本部より年4回身体拘束についての資料が届き、全職員に自己研修してもらいレポートを提出することで理解度を確認し、理解が不十分な場合には管理者が個々に指導を行っています。フロア毎に身体拘束についての項目に沿ってチェックを行うことで言葉による拘束が減少しています。玄関は開放し外に出られた場合は付き添いながら安全を確保するように支援し閉塞感のないケアに努めています。	

愛の家グループホーム京都洛西（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内研修にて高齢者虐待防止関連法について研修をしたり、入居者様との関わりの中で日々スタッフ同士で注意しながら身体拘束防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の中に成年後見制度を受けておられる方がおられ、運営推進会議にも司法書士の方が参加してくださっており、内容についても学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を1字1句読み合わせ、その都度疑問があれば質問に答えるようにして、ご家族様の理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度、ご家族様アンケートを取っており、ご要望やご意見に対し取り組みを行い、運営に反映させている。	面会時や月1回の家族との食事会、電話、年1回のアンケート調査等で意見や意向を聞くようになっています。利用者の健康状態や入浴、食事の献立等について知りたいという意見があり、入浴表やバイタルチェック表、献立の詳細等を毎月送付したり、医療面について不安のある家族については往診時に同席してもらうなど得られた意見を反映するよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行うカンファレンスにて意見や提案を聞いたり個別に話す機会を設け、提案などの実践に取り組んでいる。	職員は個々の利用者に対しての支援の方法や提案、日々の業務の中で困っていることなど月1回のカンファレンスや業務の中で活発に意見を出しています。居室担当やレクリエーション担当などからの意見が挙がることもあり、都度各フロアで話し合うようにしています。カンファレンスでは交代で司会を担当してもらい意見を出しやすいよう工夫をしています。また、管理者は随時個々に面談を行い希望や意見を聞くようになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、職員アンケートや表彰制度・様々なコンテストなどを行い、職員のモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、研修計画を立てて関西のホームの中で他職員と一緒に研修をおこなったり、外部研修もすすめている。様々な資格支援もおこなっている。		

愛の家グループホーム京都洛西（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への挨拶まわり・イベントなどの交流を通じてネットワークを構築したり、運営推進会議への参加もいただいている。また、かつの会への定期参加も検討している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時、不安や希望などをできるだけ聞かせていただき、スタッフとケアについて話し合いを行い、信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時、入居者様と共にご家族様の不安や希望をできるだけ聞かせていただき、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と入居前にしっかりと話し合いを行い、入居者様・ご家族様が「こうしたい・こうして欲しい」と思っておられることに対して、その人の為にならないと判断した場合は相談し他サービスについても話し合いを行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはできるだけおこなっていただき、できない所だけをお手伝いさせていただきようとしている。その他、様々な事を教えていただいたりしながら双方に支えあう関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何か困りごとや助けていただきたいこと等あれば、ご家族様に連絡し相談相談させていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様との話の中で出てきた馴染みの人の話をご家族様に伝えて支援していただいたり、住んでおられた場所に散歩やドライブに行ったりしている。	知人や近所付き合いのあった方の来訪があり、リビングや居室でゆっくりと過ごしてもらっています。家族と一緒に以前に行っていたデパートに出かけたり、自宅に帰えられる方には身支度などの支援を行っています。ドライブを兼ねて職員と一緒に自宅付近まで出かけることもあります。また、知人との電話のやり取りについても取次ぎを行うなど、馴染みの関係継続の支援に努めています。	

愛の家グループホーム京都洛西（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で助け合ったり(家事など)状況に応じて入居者様同士が関わりあえるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族様と連絡を取り、ホームのイベントなどに参加していただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にホーム独自のアセスメントを用い、本人の意向の把握に努めており、センター方式の一部も使用している。	入居前に本人や家族と面談し生活歴や趣味、意向などを聞いています。入居後はゆっくりと関わりながら会話や表情等の中から気づいたこと等をアセスメントシートに追記し介護記録にも記載し職員間で共有しています。また、カンファレンスで話し合い、思いに添った暮らしに繋がるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	最初にアセスメントを取りますが、生活している中で気付いたこと・ご本人様が語ったことやご家族様に伺ったことなどを追記し把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を送っている中で、常に状態観察を行い、把握に努め申し送りも行い、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当ごとにモニタリングを行い、サービス担当者会議を開き、介護計画を作成している。	本人や家族の希望を基に介護計画を作成し3か月毎にモニタリングや評価、見直しを行っています。見直し前にはサービス担当者会議を行い家族にも参加してもらい、不参加の場合は事前に意向を聞き、必要に応じて医師の意見も反映させ、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護計画を作成し、申し送りを詳細に行い、情報共有しながら実践したり、介護計画を作成している。		

愛の家グループホーム京都洛西（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人が望むことをできるだけ支援できるよう取り組んでいる。状況に応じてご家族様にも協力をお願いしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会の会合に出席したことで、地域の様々な取り組みに参加することができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回、往診医に来て頂いており、緊急時でも24時間医師の指示を受けることができる。週1回看護師が勤務し、受診介助や医療連携をおこなっている。	入居時にかかりつけ医が継続できることを説明していますが、全員が事業所の協力医に変更をし、月2回の往診を受けています。協力医とは24時間連絡が取れ随時の往診や指示を仰いでいます。専門医などへの受診は家族が対応し、緊急時など必要に応じて職員が対応しています。また週1回歯科医の訪問があり、希望者や必要な方が治療や口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携記録に看護師が情報や往診内容を記録し、スタッフも気付いたことを記入したり口頭で伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際に病院関係者との情報交換や相談に努めている。緊急時は往診医が病院への働きかけもしてくださっている。毎月病院への挨拶まわりもおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様との契約の段階で、重度化や終末期に向けた方針の話し合いをおこなっている。ホームとして看取りに向けた話し合いをおこなっている。	入居時に看取り指針に沿って家族に説明を行い、重度化した場合は医師や看護師から詳しい説明を行い、管理者、ケアマネジャーを交えて話し合いを重ね方針を共有しています。看取り支援の経験もあり家族の協力を得て行っています。支援後は職員間で話し合う機会を持ち、また職員には自己研修をしてもらい、いつでも管理者に相談できる体制を作り看取り支援に繋げています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAED講習を受講済みであり、新人職員に対しても、消防署の救急講習受講を促している。		

愛の家グループホーム京都洛西（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練にて訓練を受けている。全職員が緊急時の避難場所も把握している。災害時の自治会との連携も取れている。	消防署立ち合いの下、年2回昼間を想定し通報や初期消火、避難誘導、水消火器等の訓練を利用者と共に行っています。訓練の際には近隣に声かけを行っています。コンセント周りの埃の確認を日々行ったり、季節の変わり目には電気製品の安全を確認しています。備蓄は建物外の物置に準備しています。次回の訓練は夜間想定で行う予定です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から職員間で注意しあいながら、人権の尊重や自尊心に配慮した言葉掛けをおこなっている。	不適切ケアチェックシートに基づき2か月に1度チェックを行い、それを基に職員間で話し合いをしています。丁寧な柔らかい言葉かけを基本に名前は苗字で呼ぶようにしており、不適切な言動がみられた場合は管理者が個々に指導するようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアの中で、入居者様ご本人がおこないたい事を実施できるように、随時声掛けなどの働きかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが居室で過ごしたり、リビングでテレビを見たり、歌を唄ったり、家事をしたりと、ご本人のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時、「今日はどの服にしましょうか？」と伺い選んでいただいています。装飾品のお好きな方は毎日身に付けておられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、食事の材料を切ったり、皮を剥いたり、お盆の用意や後片付けなどももてくださっています。おやつ作りなども一緒におこなっています。	食事は法人の献立を基に利用者の好みや旬の物、畑で採れた野菜などを取り入れアレンジしながら立てています。食材の買い物は職員が行い、利用者には野菜の下拵えや後片付けなどできることに携わってもらい職員と一緒に食事を摂っています。バーベキューや流し素麺など季節に合わせた食事や暦の上での行事食、ゼリーやあんまんなどのおやつも工夫をしながら作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量などを記録に残し、体重やその方の状態に応じて食事量などを調整し支援している。		

愛の家グループホーム京都洛西（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアをおこなってもらえるよう声掛けを行い、実施していただいている。週1回の歯科往診にて口腔状態も診ていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、表情や仕草等を観察し自尊心に配慮しながら声掛けおこない、トイレ誘導を行うことで自立に向けた支援をおこなっている。	座位の保てる方はトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表を参考にしたり表情や様子を見逃さないようにしてトイレへの声かけや案内を行っています。カンファレンスで情報交換を行えるだけ失敗なく快適に過ごせるよう個々に合わせた支援を検討し、退院後は日々の記録を確認し職員間で話し合い入院前の状態に戻るよう取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトを摂取していただいたり、入居者様によっては食後の運動や、その入居者様にとって便秘に効くと思っておられる物を提供したりと個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は午後入浴であるが、個々の入浴希望に合わせて柔軟に対応している。季節によっては、菖蒲湯やゆず湯等も楽しんでいただいている。	入浴は週に2回午後の時間帯に一人ずつ湯を入れ替え支援しています。入浴を断られる場合は声かけの仕方に工夫したり時間や日にちを変更するなど無理強いないで入ってもらい、場合によっては清拭や足浴に変更することもあります。好みのシャンプーやリンスを使用したり、菖蒲や柚子などの季節湯や全国の湯の花の入浴剤を用意し、ゆっくりと入浴してもらえるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様に合わせて過ごしていただいております。居室でテレビを見たり、お昼寝をしたり、リビングで休まれたり、夜眠りにくい方にはコーヒー等の刺激のある飲物は午後からは控えるようにしています。就寝前にはホットドリンクを飲んでいただいたり安眠にもつなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を常に把握しており、入居者様の状態を見ながら往診医・看護師と相談しながら服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意だったり、大好きだった人には料理や掃除などをしていただいたり、食事に関しても昔から好きだった物や広告を見て欲しい物などを購入したりと個別で楽しませています。		

愛の家グループホーム京都洛西（ひまわり）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出はできるだけご本人の希望に添えるよう支援しています。散歩や買物など日常的に外出しています。ホームとしてすぐに行けない場所などは、ご家族様に連絡して相談させていただいています。	地域の行事への参加以外にも毎日午前中に30分程度近隣を散歩したり、買い物やドライブ、玄関先での日光浴や花植え、畑での収穫など日々外気に触れる機会を多く作っています。また、喫茶店に出かけたり、初詣や桜の花見、紅葉狩りなど季節毎の外出の機会も設け家族に声をかけ協力してもらい一緒に出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方やお金を持っていないと不安とおっしゃられる方については、ご本人で管理されています。（ご家族様了承済）買物に行くとき自ら出されることもあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のご希望があれば、掛けていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節に合わせて壁紙を張り替え季節感を出している。リビングには加湿器を抗菌作用のあるソリューションウォーターを設置しています。テレビの音量にも気をつけ、定期的に窓を開け換気にも気を使っています。	共用空間は散歩時に摘んできた花を花瓶に生けたり、クリスマスツリーや壁紙などの作品を飾り季節感に配慮しています。テレビ前にはゆったりとしたソファが置かれ、フロアや廊下の突き当りには座りやすいベンチを備え、利用者が寛いで過ごすことのできる空間作りに努めています。毎日換気と掃除を行い、温湿度計での管理と利用者の体感を聞きながら調整し、テーブル等の配置は状況に応じて変更し居心地よく過ごせるよう支援しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは1人になれる場所が作りづらいが、気の合った入居者様同士で過ごされることが多くあります。廊下の奥にはソファを設置しており、1人になれる空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使い慣れた物や大切にされていた物（お仏壇やアルバムなど）を持ち込んでいただいております。自宅と同じ様な環境で暮らしていただけるようにしております。	入居時に本人が今まで使用していたものを持ってきてもらうよう伝え、籐の椅子や日本人形、仏壇などを持参され家族が配置をしています。入居後は状況に応じて家族と相談しながら変更することもあります。また、刺繍などの本人の作品や家族の写真など傍に置き、安心して過ごせるよう配慮しています。希望により布団を敷いて休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で歩行できて、その日の状態を判断できる方は状態に合わせて杖を持ったり、手すりを持ったりして歩行されています。判断が難しい方には、スタッフが日々の状態を観察しながら、その都度声掛けを行い、自立した生活を送れるよう支援しています。		